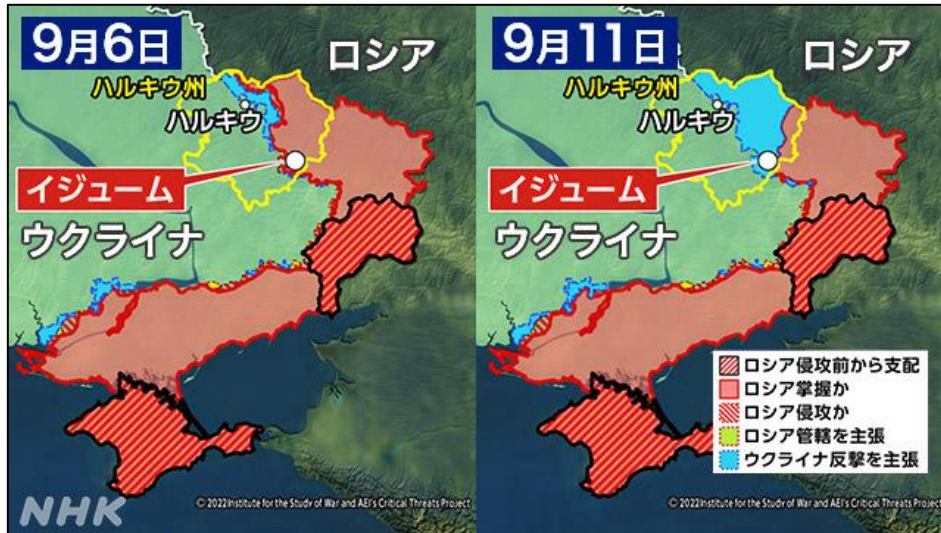


9月28日のウクライナ情報

安齋育郎

〈ウクライナ戦争〉近況

9月初旬、ウクライナ軍の部隊がロシアと接する東部ハルキウ州で大規模な反転攻勢を行い、9月10日、ロシア軍が重要拠点イジュームからの撤退を表明したと報じられました。



9月6日からの5日間で解放した地域は3000平方キロメートル以上にのぼり、これは4月以降にロシア軍が奪った領土を上回る規模だとされ、西側ではウクライナ側の大戦果として大々的に報道されました。



ところが全く違う見方があります。

上の地図の青で囲ったハルキウ地方は「反ロシア派」が多い地域で、ここを抱え込むと将来この地域で内戦めいた事態が起こりかねず、仮に「ロシア連邦への編入」に関する住民投票を実施してもこの地域では「反対」がかなりの%を占めたり、そもそも投票そのものに反対して投票率が低かったりといった状況が起こる可能性が高いでしょう。

そこで、ロシアはこの地域を管理下に置くことをやめて意図的に撤退し、ウクライナ側がそこに進攻して「3000km² 以上を奪還した」のではないかというのです。ロシアはすでに制圧しているルハンスク、なおウクライナ軍からの攻撃は断続的にあるがかなり制圧が進んでいるドネツクにまであえて管轄エリアを下げて、親ロシア派が圧倒的に多いこの地域(前頁地図の①)でロシア連邦への編入投票を行うことにしたという訳です。そして、すでに 2014 年に「編入済み」で実質的にロシアが支配しているクリミア半島(②)とつなぐために、新たにザポリージャ州とヘルソン州(③)の編入を企てたのではないか。これら 2 州は前頁の NHK の地図でも「ロシア掌握か」とされている地域で、住民投票を行えば「ロシア編入」を望む割合が高いことは予想できるでしょうが、何しろこの地域は今のところウクライナの一部としての 2 州ですから、事はそう簡単ではないように思われます。住民投票の結果「ロシア編入」を望む声が圧倒的多数を占めるとしても、ウクライナがそれだけでこれら地域での主権を手放し、ロシア編入を認めることは考えられません。

もし、それでもロシアが住民投票の結果を踏まえて、これらの地域をロシア連邦の一部と見なして、このエリアにウクライナ側からの攻撃があった場合には「ロシア連邦に対する攻撃」と解釈して宣戦布告し、本格的な戦闘に踏み込むとすれば、「特別軍事作戦」は「戦争」に変質し、EU は参加しないと言っているもの、アメリカの対応次第では非常に際どい状況をもたらす可能性があるでしょう。プーチンの予備兵召集は、仮に 4 州編入となると長く伸びる「国境線」警備に人手が必要なので、そのためのでしょう。

ウクライナから(ウクライナが「うちの領土だ」と考えている)4 州を分離・独立させる問題は、ややこしいですね。国家の「独立」の判断についてよく引き合いに出されるのが「コソボ独立」の例です。



1991 年にソ連が崩壊した後、旧ユーゴスラビアを構成する地域で独立の機運が起こり、ボスニア・ヘルツェゴビナやモンテネグロなどが次々と独立する中で、1998 年から 1999 年にかけてセルビア南部を拠点とするコソボ解放軍とセルビア軍との間でコソボ独立戦争が起こりました。

1999 年 6 月 10 日、国連安全保障理事会は戦争を終結させる決議を可決し、コソボに NATO 平和維持軍を設立し、120 人の議員体制下での自治権を提案しました。やがて、コソボの完全な独立への欲求が高まり、国連、欧州連合、およびアメリカがコソボと協力して独立計画を策定しました。しかし、

ロシアは、拒否権を持つ国連安全保障理事会のメンバーとして、セルビアの懸念に対処しない形でのコソボ独立を拒否しました。

2008年2月17日、コソボ議会(120人の定数中109人のメンバーが出席)がセルビアからの独立を宣言することを全会一致で投票しました。セルビアはコソボの独立は違法であると宣言し、ロシアはそれを支持しました。

しかし、コソボの独立宣言から4日以内にアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オーストラリアを含む15か国がコソボの独立を認め、2009年半ばまでに、EU27加盟国のうち22か国を含む世界63か国がコソボを独立国として認めました。

コソボが完全な国際的承認を得るためには、まだ課題が残っています。時間の経過とともに、コソボの独立国としての地位が広がるでしょうが、ロシアと中国がコソボの存在の合法性に同意するまで、国連加盟は保留される可能性があります。

もちろん、国家の意義は「国連に加盟するかどうか」はごく一部の問題で、例えばニュージーランドの近くにあるニウエは人口1,695人の(バチカン市国に次ぐ第2の)小国ながら、日本も国家として承認し、核兵器禁止条約にはこれに加入して同条約の発効に貢献している。

いずれにしても、ウクライナからルハンスク、ドネツク、ザポリージャ、ヘルソンを分離独立させて、ロシアに編入するというのは、コソボの場合よりもややこしい気がします。コソボの場合はなにしろアメリカがコソボの後ろ盾だったこともあって、続々と国家承認が進みましたが、今度の場合ロシアが編入手続きを進めても、多くの国が続々とそれを承認するのかどうか。2014年に独立を宣言したドネツク、ルハンスクの両人民共和国を承認しているのは、これら両国の相互承認のほかは、国連加盟国ではロシアと北朝鮮、国連非加盟国では南オセチア共和国とアブハジア共和国だけです。かなり強引な「現状変更」に見えますが、「力による現状変更」ではなく、「住民自身のロシア連邦加盟に関する合意による現状変更だ」とするロシアの立場が広く理解されるかどうか、しばらくは目を離せません。

●イギリスの新首相トラス氏(2022年9月6日)

トラス新首相誕生へ「鉄の女」意識したイメージ戦略

<https://www.youtube.com/watch?v=m-zELdd9Wf4>



●ウクライナおよびロシアの捕虜(2022年9月26日)

左は、マリウポリで市民虐殺を重ねたが捕虜交換で解放されたアゾフのリーダー。右は、捕虜交換さ

れたロシア兵。まともに歩けない者、担架で運ばれる者もいる。明らかに拷問の形跡。



●ロシアで学童を撃った男のシャツに卍マーク(2022年9月26日)



●モスクワの DNR 大使館の前の行列(2022年9月26日)

ロシア加盟を問う住民投票3日目、モスクワのDNR大使館前には数メートルの行列ができた。ほとんどがDNRとLNRの市民ですが、ケルソンやザポロジエ地方からの難民も来ています。

<https://twitter.com/i/status/1574211857757642752>



●イタリアのオズバー、スターク氏の住民投票の見立て(2022年9月26日)

「ドネツクのロシアへの加盟を問う住民投票は圧力や自由の欠如は感じられなかった」。「投票は民主

的投票の要件を満たしている」。また、欧米のプロパガンダは実際にはないことを伝えていると指摘した。



●ゼレンスキー発言「ロシア人は出ていけ」(2022年9月26日)

<https://twitter.com/i/status/1574265917248532481>

ラブロフ外相の言葉「2021年8月にゼレンスキーはロシア人に出ていけと言った」の動画です。元々ドンバスに住んでいた400万人を「占領者」と呼び、ウクライナは豊かになるが、ドンバスは貧しいままとテレビで言う腐った大統領。



(ドンバスにいるロシア系住民は)子供や孫のためにも、ロシアで自分の居場所を見つける時が来たと理解しなければなりません。それが正しいことです。

●住民投票スケジュール(2022年9月26日)

<https://twitter.com/i/status/1574083753894629376>

※安齋注:以下の手順で進んでいるということですが、穏便には悶着付きかもね。ツイッターの間には、「ウクライナ4州のロシアへの編入を問う住民投票の有効性を議論するには、コソボのセルビアからの一方的な独立宣言は国際法に反しないという国際司法裁判所の判決を踏まえるべきですね。このときの意見を主導したのは、国際司法裁判所元所長の小和田恒氏、雅子さまの父です」という意見もあります。

- ①9月27日:投票結果の集計結果が出る
- ②9月28日:ロシア下院で新しい領土併合の投票
- ③9月29日:ロシア連邦評議会で投票
- ④9月30日:プーチン大統領が新4州の併合を連邦議会でアナウンス



●ヘルソンの砲撃で亡くなった元ウクライナ議員(2022年9月26日)

今日のヘルソンの砲撃で亡くなった元ウクライナ議員、反ファシズム活動家の Alexei Zhuravko 氏。この方とお付きの人が亡くなり、RT の取材班は軽傷で済みました。この動画は 2 日前に住民投票に行った時の様子。

<https://twitter.com/i/status/1574087291609706498>



●ラブロフ外相の国連総会演説(2022年9月22日)

ウクライナが今や完全にナチス思想を奉じる全体主義国家へと変わり、何の罰を受けることもなく国際人道法を蹂躪していることは疑いない。ウクライナ軍と民族主義部隊が、民間人を『人間の盾』として利用してテロ戦術を展開していることは、驚くに当たらない。

こうした状況で特にシニカルであるのは、ウクライナに武器や軍事技術を供与し、ウクライナ軍人員の訓練を行う国々である。その目的は、戦闘を最大限長引かせてロシアを疲弊、弱体化させることにある。(しかもこの目的を隠しもせず、むしろはっきりと宣言している。)

特別軍事作戦の実施決定は、不可避であった。ウクライナが、ロシアの安全保障への脅威を生みかつ実現する『反ロシア』橋頭堡としての役割を果たす準備をしていたことについては、これを示す膨大な量の事実が提示されている。

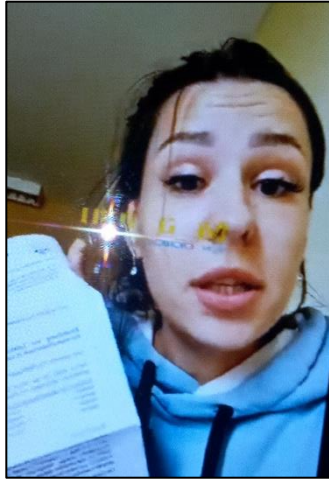
<https://t.me/rusembjp/4604?single>



●ヨーロッパに避難しているウクライナ難民(2022年9月27日)

今まで国から貰ってたお金が 9 月 1 日からストップかけられた。私たちは、辛くて食べられないくらいのサンドイッチばかり食べさせられてる。

<https://twitter.com/i/status/1574677386167488515>



●ロシア連邦加盟の住民投票最終日(2022年9月27日)

ザポリージャにある投票所の様子とルガンスクの住民が一斉にバルコニーにロシア国旗を掲げている様子。



●ロシアの編入手続きの予定(0 テレ・ニュース、2022年9月27日)

ロシア議会在29日に関連法案審議、30日も編入手続きか？

<https://news.ntv.co.jp/category/international/d14c857b1726485aadd10e22a3a1c395?s=09>



●プーチン氏演説へ—国営通信(時事通信社、2022年9月26日)

ロシアのプーチン大統領が、ウクライナ東・南部4州の親ロシア派による「住民投票」の結果に基づき、30日に領土編入の手続きを行う公算が大きくなった。国営タス通信などが24日、議会関係者の話と

して伝えた。プーチン氏は上下両院議員を前に演説するとみられる。2014年に併合したウクライナ南部クリミア半島と同じシナリオであれば、独立国家として承認した4州の親口派と「編入条約」に調印する可能性がある。



●ヘルソンの住民投票へのウクライナの攻撃(2022年9月26日)

ウクライナは、住民投票中のヘルソンを砲撃して民間人を殺害した。



●ナチズム、ネオナチズム、および現代の形態の人種差別、人種差別、外国人嫌悪および関連する不寛容を煽ることに貢献する他の慣行の賛美と闘う:決議/総会で採択

賛成: 133 | 反対: 2 | 棄権: 49 | 無投票: 9 | 総数: 193

反対したのはアメリカとウクライナ。

